



THE PORTLAND GROUP

PGI® Professional 2019 旧製品 PGI® Workstation/Server 2019

Linux 版 (Release 2019)

– インストールの手引き –

PGI インストール関係の日本語ドキュメントは、以下の URL に全てアーカイブしてあります。実際のインストール手続きは、以下の Web ページを参考にさせていただいた方が包括的に理解でき、都度、適切なページを参照できます。
以下の Web 上のドキュメントをご利用下さい。

http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst_document.html

2019 年 2 月版 (Rev. 19.1-A)

株式会社 ソフテック HPC ソリューション部

(<http://www.softek.co.jp/SPG/>)

SofTek

目次

1	はじめに	1
1.1	本文書の内容	1
1.2	PGI 製品のソフトウェア情報パッケージについて	1
1.3	ライセンス形態	1
2	Web アカウントの確認とアカウントの有効化	2
2.1	PGI WEB アカウントの事前確認(新規購入のお客様)	2
2.2	現在使用中のお客様 (バージョンアップを行うお客様)の場合	2
3	PGI コンパイラのインストール準備	2
3.1	インストールに必要なディスク容量およびGNU/LINUX パッケージ	2
3.2	PGI アクセラレータ機能 (GPU アクセラレータ機能) を使用する場合の事前準備	3
3.3	弊社発行の「ユーザ登録書 (ライセンス証書)」の準備	3
3.4	PGI ソフトウェアの準備	3
3.5	インストールにおける LANG 環境変数の設定	4
4	ソフトウェアのインストール	5
4.1	自動ライセンスキーの取得について	5
4.2	インストール・スクリプトの実行	5
4.3	PGI コンパイラ実行のための環境変数、パスの設定 (ユーザ環境の設定)	8
5	ライセンスキーの設定	10
5.1	正式ライセンスの取得のための HOSTID 情報	10
5.2	ライセンスファイル (LICENSE.DAT) の確認と配置	10
5.3	FLEXNET ライセンス管理起動スクリプトの確認	11
5.4	ライセンス・デーモンをシステム起動時に自動的に起動する設定 (手動で設定する場合)	11
5.5	FLEXNET ライセンス・デーモンの起動	12
5.6	リリース番号チェック	12
6.	その他の設定等	13
6.1	他のマシンにインストールして使用する際のライセンスの設定 (NETWORK FLOATING 製品)	13
6.2	OPEN MPI ライブラリについて	15
6.3	一般ユーザでのコンパイラ利用環境の設定	15
6.4	ドキュメントの参照	15
6.5	更新ソフトウェアの適用 (リビジョンアップ)	16
6	サポートサービスについて	17
6.1	初期サポートサービス	17
6.2	ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口	17

1 はじめに

1.1 本文書の内容

本文書は、**PGI Professional for Linux** 製品（旧名 **PGI Workstation/Server** 製品）のインストールおよびライセンス設定方法を記述したドキュメントです。

1.2 PGI 製品のソフトウェア情報パッケージについて

弊社にて PGI 製品の「ソフトウェア情報パッケージ（サブスクリプション）」を用意しております。ソフトウェア情報パッケージをご購入頂くことにより、以下のサービスが受けられます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

同パッケージを未購入の方でも、製品出荷後 30 日間はインストールに関するサポートサービス（電子メール、FAX のみ）を受けることができます。ソフトウェア情報パッケージで提示しております内容を希望される場合は、本パッケージのご購入が必要となります。

ソフトウェア情報パッケージの有効期間は、出荷セットに同梱致しました「ソフテック エンドユーザ登録用紙」の「プロダクト情報」の欄に記載されておりますのでご確認ください。また、本パッケージは製品ご購入後 1 年間有効（製品ご購入時に設定される無償保証期間は含みません）とし、2 年目以降もご希望のユーザ様には、継続購入して頂く必要がございます。

1.3 ライセンス形態

PGI コンパイラのライセンス形態は、FlexNet 形式のライセンスとなります。下記に本製品のライセンス形態と制限事項を説明致します。

表 1 ライセンスの形態

ライセンスタイプ	内容
FlexNet 形式	任意のユーザアカウントでコンパイラを使用できます。コンパイラを同時に行えるユーザ数の制限があります。また、ネットワークカードが実装されている必要があること、およびライセンスサーバ・デーモンを起動する必要があります。

PGI (Accelerator) Workstation、PGI Professional Node-locked 製品：

この製品は、1 台の特定されたシステム上でのみ（ノードロック形式）、かつ、同時に 1 名のみが PGI コンパイラを使用できます。したがって、この同一システム上で、FlexNet ライセンス管理ソフトウェアも動作させる必要があります。

PGI (Accelerator) Server、PGI Professional Network floating 製品：

この製品は、同じネットワーク上の任意の Linux システムで PGI コンパイラをインストールし、使用できます。ネットワーク上で、コンパイルを同時に行えるユーザ数は、ご購入頂きました製品タイプによって異なります。ネットワーク上にライセンスを管理するための FlexNet ライセンス管理サーバ（このサーバ上でコンパイラも動作させること

ができます) を立ち上げる必要があります。本書では、この「FlexNet ライセンス管理サーバ」となるシステムに、PGI コンパイラをインストールすることを想定して記述しています。

PGI のライセンスキーは、eth0 ネットワークカードの Mac アドレスに基づいて生成されているため、下記の動作を FlexNet ライセンス管理用のシステムに行った場合、ライセンスキーが無効となり、PGI コンパイラの再インストールおよびライセンスキーの再発行が必要となりますのでご注意ください。

- PGI ノードロック製品の場合はライセンスを別システムへ移行する時
- PGI フローティング・ライセンス製品の場合、FlexNet ライセンス管理サーバを別のシステムへ移行する時
- マザーボードを交換したとき (結果的にネットワークカードの変更を行った)
- ネットワークカードを別のスロットへ移動したとき
- ネットワークカードをマザーボードから抜き、新しいカードと交換したとき

2 Web アカウントの確認とアカウントの有効化

2.1 PGI Web アカウントの事前確認(新規購入のお客様)

PGI 製品ライセンスを新規に購入したお客様には、購入時のユーザ情報にもとづいて、PGI 社のライセンス管理用の Web アカウントが自動的に作成されております。このアカウント名は、登録ユーザの電子メールアドレスとなっており、本アカウントを最初に使用する前に、「アカウントの有効化(アクティベーション)」が必要です。

PGI コンパイラをインストールする前に、必ず、ご自身の Web アカウントの有効化を行ってください。ライセンスキー・ファイルを取得するために、PGI 社の Web サイトにログインする必要があります。

アカウントの有効化(アクティベーション)に関する詳細は、別紙「PGI ライセンス発行の手引き」の 4 ページの 1.1 項に説明しております。あるいは、弊社 Web サイトの以下の URL にて、説明しておりますのでご参照ください。アカウントの有効化した後、改めてログインできるかどうかをご確認して下さい。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/keyissue.html>

2.2 現在使用中のお客様(バージョンアップを行うお客様)の場合

現在、すでに PGI 製品ライセンスを有しており、コンパイラをお使いのお客様は PGI 社のライセンス管理用の Web アカウントを既にお持ちになっております。したがって、上記 2.1 項で述べたアカウントの有効化の作業は一切必要ありません。

3 PGI コンパイラのインストール準備

3.1 インストールに必要なディスク容量および GNU/Linux パッケージ

PGI コンパイラをインストールする際は、一時的に約 3GB (ダウンロードファイルは約 1.7GB 使用) のハードディスク容量が必要になります。インストールするマシンのディスク容量を事前にご確認下さい。

その他、Linux システムは、「GNU gcc、gcc-c++」と「gcc-fortran」の開発環境用のパッケージがインストールされている必要があります。これらのパッケージがインストールさ

れていない場合は、PGI コンパイラのインストール前に、必ずこれらのパッケージの追加を行って下さい。必要となる GNU パッケージについては、以下の URL(弊社の PGI FAQ (2)) に詳細に説明しておりますのでご参照下さい。

(GNU GCC パッケージについて)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq2.html#002>

(Red Hat の場合の一例) <http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq2.html#027>

(SUSE の場合の一例) <http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq2.html#024>

(Fedora の場合の一例) <http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq2.html#027>

(Ubuntu の場合の一例) <http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq2.html#020>

PGI 12.1 以降では、さらに Linux 上に **Linux Standard Base(LSB) package** の実装が必須です。これが実装されていない場合、FlexNet ライセンス・マネージャのソフトウェア動作に問題が生じます。この導入に関する FAQ は、以下の URL で示す弊社ホームページに掲載しています。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/FAQ/faq3.html#024>

3.2 PGI アクセラレータ機能(GPU アクセラレータ機能)を使用する場合の事前準備

PGI アクセラレータ機能(OpenACC/CUDA Fortran)を使用する場合は、NVIDIA 社 GPU の **CUDA 用ドライバ**を事前にインストールしていただく必要があります。NVIDIA 社の CUDA 用ソフトウェアの説明とその入手は、以下の URL で可能です。各 OS 用のソフトウェアが提供されておりますので、適切なものを入手し、事前にインストールをお願いします。検索エンジンで、「CUDA toolkit」で検索してください。あるいは、以下の NVIDIA 社のページから、「現時点のプロダクション・バージョン」を選択して下さい。

<https://developer.nvidia.com/cuda-toolkit>

(インストール方法)

<https://docs.nvidia.com/cuda/cuda-installation-guide-linux/index.html>

DOWNLOAD ページに移り、各 OS の CUDA ソフトウェアのタブが表示されますので、該当するタブをクリックしてダウンロードしてください。CUDA ソフトウェアは、以下の 3 種のソフトウェアを一つに纏めた形となっております。

1. **CUDA ドライバ**
2. **CUDA ツールキット**
3. **CUDA SDK コードサンプル**

NVIDIA 社が推奨する方法で、上記の三つのソフトウェアをインストールしておくことをお勧めします (デフォルトでは全部実装されます)。

実は、上記のうち、PGI Accelerator で必要とするソフトウェアは、**CUDA ドライバのみ**です。「CUDA ツールキット」の中に含まれる CUDA ライブラリやアセンブラ等の PGI コンパイルに必要な tools 群は、PGI ソフトウェアの中にバンドルされ (PGI 2019 では、その時点で対応する CUDA Toolkit バージョンがバンドルされています)、自動的に PGI の実装内にインストールされます。

3.3 弊社発行の「ユーザ登録書(ライセンス証書)」の準備

お手元に、弊社発行の「ユーザ登録書 (ライセンス証書)」をご用意下さい。この証書の中に、購入いただいた製品ライセンスの PIN 番号情報等が記載されております。また、PGI 社の Web アカウント (= ご登録 e-mail アドレス) も記載されております。

3.4 PGI ソフトウェアの準備

本コンパイラ製品をインストールする際は、「ルート(root)権限」でのインストールを行って

ください。

PGI コンパイラのソフトウェアは、PGI サイトから最新（直近）のソフトウェアをダウンロードしてご使用ください。別紙「PGI 製品ダウンロードの手引き」を参考にコンパイラ製品をダウンロードし、任意のディレクトリに置きます。これは、**下記 4.2 項**で述べる、**正式に PGI コンパイラをインストールしようとするディレクトリ**（例えば、/opt/pgi）とは異なる場所においてください（例えば、大きな領域を有する /tmp/PGI 等に展開する）。コンパイラは、tar.gz 形式で提供しておりますので、下記の様なコマンドでカレントディレクトリに解凍して下さい。なお、コンパイラをインストール終了した場合は、この解凍ファイル、並びに展開したディレクトリ（例えば、/tmp/pgi）を消去しても構いません。

なお、PGI 2017 リリースから 64bit 版のソフトウェアのみの提供となりました。

(64bit 版ソフトウェア)

```
% tar zxvf pgi linux-2019-19*-x86-64.tar.gz
```

3.5 インストールにおける LANG 環境変数の設定

本製品は英語環境での使用を前提としているため、コンパイラのインストール時には、**環境変数 LANG を英語**にする必要があります。Linux を日本語モードでご使用の場合は、以下のコマンドで**環境変数 LANG を必ず変更した上でコンパイラのインストールを開始して下さい**（変更されない状態でインストールを行いますとコンパイラ使用時に“/usr/bin/ld: cannot open ./crtbegin.o”等のエラーが発生します）。

以下のコマンドで、現在の LANG 変数の内容を確認してください。

```
# env |grep LANG
# LANG=en_US (=C または=en_US でない場合は、以下の設定を行ってください)

# export LANG=C (または、export LANG=en_US) [sh, bash の場合]
# setenv LANG C (または、setenv LANG en_US) [csh, tcsh の場合]

さらに、Ubuntu の場合は、必ず、以下も追加指定すること。
# export LC_ALL=C [sh, bash の場合]
# setenv LC_ALL C [csh, tcsh の場合]
```

(注) PGI コンパイラは、上記英語モードでインストール後、日本語モードの環境下でも動作致します。但し、弊社のコンパイラ動作保証は、英語モードの環境のみとさせていただきますことをご了承下さい。

4 ソフトウェアのインストール

4.1 自動ライセンスキーの取得について

4.2 項で説明するインストール・スクリプト実行中に、以下のようなメッセージで、**新規**ライセンスキー・ファイルの自動取得手続きを行うかどうかを尋ねてきますが、これに関しては、“**n**”としてください。自動取得のための制限事項が多いため、ライセンスキーは、インストール作業を実施後、手動で PGI 社の Web サイトから取得してください。この方法は、本書の 5 章「手動でライセンスキーの設定を行う場合の方法」に説明しております。

```
Do you wish to obtain permanent license key or configure license service?
(y/n)  n
```

4.2 インストール・スクリプトの実行

インストールの準備が整いましたら、インストール・スクリプトを実行し、コンパイラをユーザが指定するディレクトリにインストールします。以下の作業は **root ユーザ権限**で行って下さい。

ダウンロードした製品ソフトウェアを使用する際のインストーラの起動は、ファイルを展開したディレクトリ上に存在する **install** スクリプトを実行します。下記のコマンドで実行して下さい。

```
# ./install
```

上記スクリプトを実行すると、下記のようにライセンス同意書が出力されますのでスペースキーなどでスクロールし、最後に同意(**accept**)か、そうでないか(**decline**)を入力します。(同意しない場合はここでインストーラは終了します。)

```
Welcome to the PGI Workstation Linux installer

You are installing PGI 2019 version 19.x for Linux
Please note that all Trademarks and Marks are the properties
of their respective owners.

Press enter to continue... <Enter を押す>

NVIDIA End-User License Agreement for PGI Software
NOTICE: PLEASE READ THIS DOCUMENT CAREFULLY BEFORE DOWNLOADING,
COPYING OR USING THE LICENSED SOFTWARE. THIS END-USER LICENSE
AGREEMENT ("ELA") IS A LEGAL AGREEMENT BETWEEN YOU, THE LICENSEE
(A SINGLE PERSON, INSTITUTION, OR LEGAL ENTITY) ("YOU"), AND NVIDIA
CORPORATION, A DELAWARE CORPORATION HAVING.
< 途中略 >
Do you accept these terms? [accept,decline]
accept <enter> ← (accept と入力して enter キーを押します)
```

次に、インストールの方法に関する設問がありますので、ここでは“**1. Single system install**”を選択してください。

A network installation will save disk space by having only one copy of the compilers and most of the libraries for all systems on the network, and the main installation needs to be done once for all systems on the network.

1. Single system install
2. Network install

Please choose install option(1-2):
1 <enter> ← (1 と入力して enter キーを押します)

次に、PGI コンパイラを実装するルート・ディレクトリの確認メッセージが表示されますので、変更がなければそのまま Enter キーを押します。ここで表示されるデフォルト・ディレクトリは「/opt/pgi」です。もしここでインストール・ディレクトリを変更したい場合はディレクトリ名をフルパスで入力し、enter キーを押して下さい。

Please specify the directory path under which the software will be installed. The default directory is /opt/pgi, but you may install anywhere you wish, assuming you have permission to do so.
Installation directory? [/opt/pgi]

次に、JAVA のインストールに関する許諾を行います。

```
*****  
JRE  
*****  
This release of PGI software includes the JAVA JRE. PGI's graphical  
debugger and profiler use components from this package.  
(中略)  
The JAVA JRE will be installed into  
  /opt/pgi/linux86-64-llvm/2019/java  
  /opt/pgi/linux86-64-nollvm/2019/java  
Press enter to continue...  
(中略)  
Last updated 02 April 2013  
  
Do you accept these terms? (accept,decline) accept  
← (内容に同意の場合、accept と入力して enter キーを押します)
```

これ以降、実際のインストールが開始されます。

```
Installing PGI Workstation version 19.x into /opt/pgi  
#####  
(インストール・エラーがある場合は、ここにエラーメッセージが表示される)  
  
If you use the 2019 directory in your path, you may choose to  
update the links in that directory to point to the 19.x directory.  
  
Do you wish to update/create links in the 2019 directory? (y/n)  
y (y とする) 代表ディレクトリの作成を行います。y としてください。
```



```
Making symbolic links in /opt/pgi/linux86-64-llvm/2019
Making symbolic links in /opt/pgi/linux86-64-nollvm/2019

外部パッケージが実装されます。
Installing PGI JAVA components into /opt/pgi/linux86-64-llvm/2019
Installing PGI JAVA components into /opt/pgi/linux86-64-nollvm/2019
Installing examples into /opt/pgi/linux86-64-llvm/2019
Installing examples into /opt/pgi/linux86-64-nollvm/2019

Installing PGI CUDA components into /opt/pgi/linux86-64-llvm/2019
##### (100%)
Installing PGI CUDA components into /opt/pgi/linux86-64-nollvm/2019
##### (100%)

*****
MPI
*****

This release contains version 3.1.3 of the Open MPI library.

Press enter to continue...
```

次に、Open MPI ライブラリのインストールを行います。“enter”を押して続けて下さい。その後、ソフトウェアの全ての実装が終わります。

```
Do you want to install Open MPI onto your system? (y/n) (y とする)
Do you want to enable NVIDIA GPU support in Open MPI? (y/n) n
(NVIDIA GPUDirect 機能を使用しない場合、あるいは、使い方が不明な場合は、必ず n としてください)
Installing package openmpi-3.1.3-2019-x86-64
Installing Open MPI 3.1.3 components into /opt/pgi ... Done
Installing ScaLAPACK 2.0.2 components into /opt/pgi ... Done

Note: Open MPI's support for NVIDIA GPUs can be re-enabled at any time.
Refer to the PGI Installation Guide at www.pgroup.com for details.

Press enter to continue..

Installing module files for PGI linux86-64 version(s): 19.1 2019
Done
```

これにて、PGI ソフトウェアの実装のためのインストールは終了します。次に、ライセンスキーの取得に関して、以下の設問が画面に現れます。

```
*****
License Key Management
*****

NOTICE: A STARTER 19.1 license key is available at:
/opt/pgi/license.dat-STARTER-19.1
Copy to /opt/pgi/license.dat to use by default,
or point to it with PGROUPD_LICENSE_FILE or LM_LICENSE_FILE.
```

(中略)

Do you wish to obtain permanent license key or configure license service? (y/n) n

The PGI license management script is available at:
/opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/pgi_license_tool

上記の問いに対して、“**n**”を入れてください。ここで、PGI のソフトウェアの実装は終了しました。最後に、インストールしたディレクトリを読みとり専用にするかを質問されますので、**y** または **n** を入力して下さい。これでインストール作業は完了です。

Do you want the files in the install directory to be read-only? (y/n)
n
Installation complete.

ライセンスキーの設定等は未了ですので、4.3 項と 5 章の作業を実施して下さい。

4.3 PGI コンパイラ実行のための環境変数、パスの設定(ユーザ環境の設定)

使用するユーザのシェル初期設定ファイル (\$HOME/.bashrc 等) に以下のような記述を加え、環境変数および各種パスの設定を行います。ここでは、root ユーザ権限でのインストールの流れで説明していますので、root ユーザのシェル初期設定ファイル (/root 配下) に設定することにします。なお、以下の環境変数、パスの設定は必ず使用する一般ユーザ毎に設定しておく必要があります。“linux86-64/2019”の **2019** の部分はソフトウェアの代表リリース番号を意味します。19.x という個別リリース番号でも構いません) Open MPI ライブラリに関連するコマンド群の PATH 設定も以下のように同時に行ってください。

[64 ビット環境使用の場合の設定 (linux86-64)]

csh または、tcsh の場合、\$HOME/.cshrc 等に以下のような記述を加えて下さい。

```
setenv PGI /opt/pgi      (コンパイラの installation directory を定義)
set path = ( $PGI/linux86-64/2019/bin $path )
set path = ( $PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi-3.1.3/bin $path )
setenv MANPATH "$MANPATH":$PGI/linux86-64/2019/man
setenv      MANPATH      "$MANPATH":$PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi-3.1.3
/share/man
setenv LM_LICENSE_FILE $PGI/license.dat
```

sh または、bash の場合、\$HOME/.bashrc 等に以下のような記述を加えて下さい。

```
export PGI=/opt/pgi      (コンパイラの installation directory を定義)
export PATH=$PGI/linux86-64/2019/bin:$PATH
export PATH=$PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi-3.1.3/bin:$PATH
export MANPATH=$MANPATH:$PGI/linux86-64/2019/man:
export      MANPATH=$MANPATH:$PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi-3.1.3
/share/man
export LM_LICENSE_FILE=$PGI/license.dat
```



PGI 19.x にバージョンアップするお客様へ

PGI 19.1 以降、FlexNet license manager のデーモン `lmgrd` ソフトウェアが新バージョン 11.16.2 に更新されました。PGI 19.1 以降にバージョンアップする際、当該 `lmgrd` ソフトウェアを使用するために新しい `$PGI/linux86-64/2019/bin/lmgrd.rc` を `/etc/init.d/lmgrd-pgi` にコピー（入れ替え）して、ライセンス・デーモンの起動をお願いいたします。過去の `lmgrd` バージョンでは、PGI 19.x は動作しません。
必ず、以下の 5 章に述べる作業を実施してください。

5 ライセンスキーの設定

この章では、ライセンスキーをオフラインで（手動で）PGI社のサイトから取得した後、その設置と FlexNet ライセンス管理マネージャの設定の方法を説明します。

5.1 正式ライセンスの取得のための hostid 情報

PGI ソフトウェアのインストールが終了しましたら、PGI 社の Web サイトにおいて、ライセンスキーの発行依頼を行って下さい。ライセンスキーの発行には「FlexNet hostid」と「Hostname」情報が必要になります。

ライセンスキー発行方法につきましては、別紙「[ライセンス発行の手引き](#)」をご参照下さい。

なお、ライセンスキーを取得するために必要な情報は、「FlexNet hostid」と「Hostname」の二つの情報となります。これらは、以下のコマンドを実行することにより得られます。12桁の **hostid** がブランクを区切りとして複数表示された場合は、最初に表示された hostid を使用して下さい。

```
# Imutil Imhostid
Imutil - Copyright (c) 1989-2013 Flexera Software LLC. All Rights Reserved.
The FlexNet host ID of this machine is ""386077d5582d 00504300e37b""

# Imutil Imhostid -hostname
Imutil - Copyright (c) 1989-2013 Flexera Software LLC. All Rights Reserved.
The FlexNet host ID of this machine is "HOSTNAME=photon0"
```

PGI ネットワーク・フローティング・ライセンス製品の場合は、FlexNet ライセンス管理サーバの位置づけとなるシステムの上記の「**FlexNet hostid**」がライセンスキーの取得において必要となります。なお、FlexNet hostid が、例えば"90e6ba7ccdf1 90e6ba7cce63"という風に、複数記述されている場合は、最初の hostid（90e6ba7ccdf1）を使用して下さい。

5.2 ライセンスファイル(license.dat)の確認と配置

前述のライセンス発行手続き後、取得した取得した FlexNet 形式のライセンスキーは下記のような形態（一部のみ掲載）となります。

```
SERVER <hostname> <hostid> 27000
DAEMON pgroupd
PACKAGE PGI2019-{PIN 番号} pgroupd 2019.0213 B7DC8266F6DD ¥
COMPONENTS="pgi-hpf-lin64 pgi-f95-lin64 pgi-f77-lin64 ¥
pgi-cc-lin64 pgi-cpp-lin64 pgi-hpf-lin32 pgi-f95-lin32 ¥
pgi-f77-lin32 pgi-cc-lin32 pgi-cpp-lin32 pgi-hpf-lin32 ¥
pgi-f95-lin32 pgi-f77-lin32 pgi-cc-lin32 pgi-cpp-lin32 ¥
pgi-prof pgi-dbg pgi-dbg-gui" OPTIONS=SUITE SIGN="1251 8B0C ¥
F036 A02A C687 38CB B8CB 621F 6E20 D49B 9E72 8BCD 5A1F AF69 ¥
EA81 199C 9811 21ED 973A 6A1E CFB4 3559 2FD3 FE28 2CA0 CDCD ¥
EA0D D202 24FC 0972"
FEATURE PGI2019-{PIN 番号} pgroupd 2019.0213 permanent 1 ¥ (略)
```

上記のような取得した新ライセンスキーを以下に従って確認し、license.dat ファイルとし

て、PGI コンパイラをインストールしたディレクトリ (/opt/pgi 等) 直下に配置 (同名の試用ライセンスファイルは上書きして良い) します。ファイルのパーミッションは以下の通り。

```
# ls -lt /opt/pgi/license.dat
-rw-r--r-- 1 root root 1923  2月  1 15:10 license.dat
```

- SERVER 行 (1 行目) にある <hostname> 名を確認してください

<hostname> は、インストールしたマシン (ライセンス管理サーバとなる) のホスト名になっていることを確認してください。ホスト名の表記は、必ず、「名前解決」が可能な形態で記述してください。PGI Server 製品では、ネットワーク・フローティング・ライセンスのため、FlexNet クライアント・マシンから、FlexNet マネージャに対してネットワーク通信が発生し、アドレスの名前解決ができることが必要です。なお、<hostname> 名は、後からでも変更可能な部分です。この名前が、/etc/hosts ファイルに登録されていることも確認して下さい。

<hostid> は変更しないでください。これは、PGI コンパイラをインストールしたマシンでかつ、5.3 で述べる FlexNet ライセンス・マネージャが動作するマシンの MAC アドレスが記述されています。これを変更した場合、PGI コンパイラは動作しません。

- DAEMON 行 (2 行目) 以降は変更しないでください。

5.3 FlexNet ライセンス管理起動スクリプトの確認

FlexNet ライセンス管理起動スクリプトの確認を行います。この実行スクリプト \$PGI/linux86-64/2019/bin/lmgrd.rc ファイル (64 ビット Linux の場合) が存在するか、確認して下さい (\$PGI は PGI コンパイラをインストールしたディレクトリを指します)。このスクリプトは、FlexNet ライセンスサーバ・デーモンと PGI ベンダー・デーモンの起動あるいは停止を制御するものです。

5.4 ライセンス・デーモンをシステム起動時に自動的に起動する設定 (手動で設定する場合)

システムのブート時に、ライセンスサーバ・デーモン (lmgrd) と PGI ベンダー・デーモン (pgroupd) が自動起動するための設定を行います。root 権限でログインし、(上記、4.3 項で説明した) PGI 環境変数を設定後、以下のコマンドを実行して下さい (以下の例は、OS 起動時の runlevel が 3 及び 5 において自動起動する設定です)。なお、現 OS が立ち上がっている runlevel 状況を確認するコマンドは、/sbin/runlevel です。



PGI 19.x にバージョンアップするお客様へ



PGI 19.1 以降、FlexNet license manager のデーモン lmgrd ソフトウェアが新バージョン 11.16.2 に更新されました。PGI 19.1 以降にバージョンアップする際、当該 lmgrd ソフトウェアを使用するために新しい \$PGI/linux86-64/2019/bin/lmgrd.rc を /etc/init.d/lmgrd-pgi にコピー (入れ替え) して、ライセンス・デーモンの起動をお願いいたします。過去の lmgrd バージョンでは、PGI 19.x は動作しません。

(64 ビット Linux の場合)

```
# cp $PGI/linux86-64/2019/bin/lmgrd.rc /etc/init.d/lmgrd-pgi
# chkconfig --add lmgrd-pgi
```

Red Hat Enterprise Linux 7 / CentOS 7 系の場合は、新しい **systemctl** で行います。

```
# systemctl enable lmgrd-pgi.service
lmgrd-pgi.service is not a native service, redirecting to /sbin/chkconfig.
Executing /sbin/chkconfig lmgrd-pgi on
```

なお、**Ubuntu** の場合は `chkconfig -add` コマンドの代わりに **sysv-rc-conf** コマンドを使用します。「`sysv-rc-conf lmgrd-pgi on`」で同様な設定が可能です。

FlexNet 形式のライセンス設定は以上で終了です。

PGI Network floating ライセンスでは、上記ライセンス・デーモンを起動しているマシンに TCP/IP アクセス可能な Linux マシンであれば、そのクライアント・マシン上でも PGI コンパイラのご使用は可能です。以下の 6.1 項「他のマシンにインストールして使用する際のライセンスの設定」をご参照ください。

5.5 FlexNet ライセンス・デーモンの起動

FlexNet ライセンス管理では、以下のコマンドを実行することにより FlexNet ライセンスサーバ・デーモン(lmgrd)と PGI ベンダー・デーモン(pgroupd)の二つが起動されます。

```
# /etc/init.d/lmgrd-pgi start
```

FlexNet ライセンス管理ソフトウェアが正常に動作している場合、以下に示す二つのデーモン・プロセス (lmgrd と pgroupd プロセス) に関する、`ps` コマンドの出力が以下の例のようになります。3行の出力が必要です

```
[root@node01 pgi]# ps ax | grep lmgrd
11613 pts/2    S      0:00 /opt/pgi/linux86-64/flexlm/lmgrd -c /opt/pgi/license.dat
11614 ?        Ssl   0:00 pgroupd -T phantom 11.16 7 -c :/opt/pgi/license.dat: ...
11702 pts/2    S+    0:00 grep lmgrd
```

ライセンスサーバ・デーモンと PGI ベンダー・デーモンを停止させる場合は、以下のコマンドを実行して下さい。

```
# /etc/init.d/lmgrd-pgi stop
```

もし、**lmgrd** プロセスや **pgroupd** プロセスが動作していない場合は、Linux システム上の `/etc/hosts` ファイルに定義したホスト名と `license.dat` 内に指定しているホスト名に齟齬がある等の原因が考えられます。**`/opt/pgi/flexlm.log`** の ライセンス・マネージャのログ等を見て、システムの設定を再度ご確認ください。その上で、5.5 項のライセンス・マネージャの再起動を行ってみてください。

5.6 リリース番号チェック

"-dryrun -V" オプションを使って、実装されているリリースナンバーの確認ができます。但し、以下のテストでは、ライセンス管理マネージャの動作確認まではできません。

(例)

```
Fortran 77 Compiler の場合           : pgf77 -dryrun -V
Fortran 77/90/95/03 Compiler の場合   : pgfortran -dryrun -V
```

C++ Compiler(GNU 互換)の場合 : pgc++ -dryrun -V
 C Compiler の場合 : pgcc -dryrun -V

(問題がない場合の 64 ビット Linux 上の場合の出力例)

```
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/.pgf90rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/nativerc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/fnativerc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/x86rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/x8664rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/lin86rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/lin8664rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/pgf90llvmrc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/pgftnrc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/pgllvmrc
Skipping pgllvmxrc (not found)
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/llvmrc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/pgllvmx86rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/pgllvmx8664rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/iparc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/noiparc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/acc1rc
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/acclin8664rc
Skipping accxrc (not found)
Skipping pgllvmomprc (not found)
Reading rcfile /opt/pgi/linux86-64-llvm/19.1/bin/localrc
Skipping localrc.photon32 (not found)
Skipping siterc (not found)
Skipping siterc.photon32 (not found)
Reading local rcfile /home/kato/.mypgirc
Skipping .mypgfortranrc (not found)
Skipping .mypgllvmrc (not found)
Skipping $MYLOCALRC (not found)
```

```
pgf90 19.1-0 LLVM 64-bit target on x86-64 Linux -tp haswell
PGI Compilers and Tools
Copyright (c) 2019, NVIDIA CORPORATION. All rights reserved.
Export PGI_CURR_CUDA_HOME=/opt/pgi/linux86-64-llvm/2019/cuda/
Export PGI=/opt/pgi
```

プログラムのソースファイルを指定しますと、ライセンス管理マネージャの動作確認もできます。

6. その他の設定等

6.1 他のマシンにインストールして使用する際のライセンスの設定(Network floating 製品)

この項は、**PGI Server/PGI Professional Network floating** 製品（フローティング・ライセンス形式）の場合の説明です。

PGI Server ライセンスは、ネットワーク上の任意のマシン上で使用可能なフローティング・ライセンスです。複数のマシン上に PGI コンパイラをインストールして、各マシン上

で PGI コンパイラを使用することができます。各マシン上でコンパイラを使う際の `license.dat` の設定の仕方を説明します。

ここでの仮定は、二つのマシン上に PGI コンパイラをインストールすることとします。また、1 台目のマシン上で FlexNet ライセンス・マネージャのデーモン・プロセス (`lmgrd`) を立ち上げることを想定します。この 1 台目のマシンとは、5 章で説明した内容を設定したマシンのことを指します。この FlexNet ライセンス・マネージャを起動するマシンは、できるだけサーバの停止を伴わないものを選択してください (**ライセンス管理サーバの位置づけ** となります)。

(1 台目のマシン：ホスト名を「**hostA**」とします)

PGI コンパイラを本インストールの手引きに従い、ソフトウェアをインストールし、5 章で述べたようにライセンスの設定を行い、FlexNet ライセンス・マネージャを立ち上げます。これによって、1 台目のマシン上で PGI コンパイラを使用することができます。なお、FlexNet ライセンス・マネージャのデーモンを起動したこの 1 台目のマシンが、他のシステムにインストールされた PGI コンパイラの動作を管理するライセンスサーバという位置づけになりますので、このサーバが停止されると、他のマシン上でのコンパイラが動作しませんのでご注意ください。

(2 台目以降のマシン：ホスト名を「**hostB**」とします)

PGI コンパイラを「インストールの手引き」に従い、ソフトウェアをインストールしてください。インストール時に「ライセンスファイルの自動設定手続き (上記 4.1 項)」は、**No** として行わないでください。1 台目のマシン上の正規ライセンスファイル (`/opt/pgi/license.dat`) をコピーして `$PGI (/opt/pgi)` 配下に `license.dat` のファイルを作成します。その後、そのファイルの 1 行目 (`SERVER` 行)のみ残し、`DAEMON` 行以降を削除します。その後、2 行目に "`USE_SERVER`" を記述して改行します。これによって、クライアントの位置づけとなるシステム上では、以下に示すように 2 行のみからなる `license.dat` を配置することになります。なお、FlexNet ライセンス・マネージャの設定と起動は行う必要はありません。これによって、2 台目のマシンで PGI コンパイラがローカルに使用できます。

【クライアント側のシステム上の `license.dat` の一例】 (2 行のみで構成する)

```
SERVER hostA <hostid> 27000
USE_SERVER
```

もし、コンパイラ使用時に以下のエラーが生じた場合は、上記 `license.dat` の `SERVER` 行の **hostA** を `hosts/DNS` により名前解決ができない可能性がありますので、ご確認ください。あるいは、`hostB` 上の `/etc/hosts` に **hostA** の記述を追加してください。

LICENSE MANAGER PROBLEM: Cannot find SERVER hostname in network database

(ご参考) PGI Network floating ライセンス使用時の実行環境設定

http://www.softtek.co.jp/SPG/Pgi/TIPS/env_var.html

クライアント側で `lincese.dat` を指定して使用する以外の方法もあります。これは、FlexNet というライセンスマネージャ・ソフトウェアの古くからの**慣習的な方法**です。この方法もご紹介します。

PGI の環境変数を設定している `.bashrc` に `LM_LICENSE_FILE` という変数があります。これに以下のように、`27000@{ライセンスサーバのホスト名}` という形式で指定します。これによって、ライセンスの問い合わせは、`hostA` の `TCP 27000` ポートへ問い合わせると言う設定が可能となります。


```
export LM_LICENSE_FILE=27000@hostA:$LM_LICENSE_FILE
```

6.2 open MPI ライブラリについて

PGI コンパイラと共にインストールされた open MPI 環境は、デフォルトでは、インストールしたシステム上でのみ MPI 実行ができるようになっております。なお、PGI コンパイラにバンドルされた Open MPI ライブラリの使用法等に関しては、以下の弊社のホームページに纏めていますので、ご参照下さい。

http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/TIPS/opt_mpi.html

http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/TIPS/public/general/openmpi_use.html

6.3 一般ユーザでのコンパイラ利用環境の設定

3.3 項で述べたように、使用するユーザのシェル初期設定ファイル（\$HOME/.cshrc 等）に以下のような記述を加え、環境変数および各種パスの設定を行います。なお、以下の環境変数、パスの設定は必ず使用する一般ユーザ毎に設定しておく必要があります。

（“linux86-64/2019”の 2019 の部分はソフトウェアの代表リリース番号を意味します。19.x という個別リビジョン番号でも構いません）

open MPI ライブラリに関連するコマンド群の PATH 設定も以下のように同時に行ってください。なお、PGI 用の環境変数の設定ならびに open MPI 用の PATH の設定を行うためのシェル・スクリプトは [\\$PGI/linux86{-64}/19.x](#) 配下に存在します（PGI 19.x の場合）。

なお、以下の環境変数の設定は、個々の HOME ディレクトリ上においてユーザ単位で行うのではなく、全てのユーザに反映できるようにするために、システムの初期設定ファイル（/etc/bash.bashrc.local 等、OS に依存します）に設定しても構いません。

【64 ビット使用環境の場合の設定 (linux86-64)】

csh または、tcsh の場合、\$HOME/.cshrc 等に以下のような記述を加えて下さい。

```
setenv PGI /opt/pgi      (コンパイラの installation directory を定義)
set path = ( $PGI/linux86-64/2019/bin $path )
set path = ( $PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi-3.1.3/bin $path )
setenv MANPATH "$MANPATH":$PGI/linux86-64/2019/man
setenv      MANPATH      "$MANPATH":      $PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi
-3.1.3/share/man
setenv LM_LICENSE_FILE $PGI/license.dat
```

sh または、bash の場合、\$HOME/.bashrc 等に以下のような記述を加えて下さい。

```
export PGI=/opt/pgi      (コンパイラの installation directory を定義)
export PATH=$PGI/linux86-64/2019/bin:$PATH
export PATH=$PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi-3.1.3/bin:$PATH
export MANPATH=$MANPATH:$PGI/linux86-64/2019/man:
export MANPATH=$MANPATH:$PGI/linux86-64/2019/mpi/openmpi-3.1.3/share/man
export LM_LICENSE_FILE=$PGI/license.dat
```

6.4 ドキュメントの参照

PGI コンパイラの最新のマニュアル・ドキュメントは、以下の URL にて公開しております。

<http://www.pgroup.com/resources/docs.htm>

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/document.html>

6.5 更新ソフトウェアの適用(リビジョンアップ)

ソフトウェアのバグフィックスは、PGI ソフトウェアのリビジョンアップにおいて定期的に行っています。サブスクリプション有効な場合は、新しいリビジョンを必要な時にインストールしてください。以下のページをご覧ください。

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/bugfix-up.html>

6 サポートサービスについて

6.1 初期サポートサービス

ソフトウェア情報パッケージ未購入のお客様を対象に弊社からプロダクト出荷後 30 日間は、インストール不具合についてのサポートを行っております。下記のメールアドレスまたは FAX にて対応しております。

support@softek.co.jp Tel: 03-3412-6008

メールの表題には「PGI コンパイラ初期サポート依頼」とご明記下さい。また、メール本文中に、お客様のご氏名・ご所属・ソフテック UserID (SPG2019-XXXX あるいはライセンス PIN 番号等) を必ずご記入下さい。ご記入に不足部分がございますと、対応が遅れることやサポートをお断りする場合がありますのであらかじめご了承ください。

また、よくあるご質問 (FAQ) ページ並びにコンパイラの使用法、オプションの使い方、その他の技術情報 (TIPS) を以下の場所に用意しておりますので、弊社へのお問い合わせ前にご一読頂ければ幸いです。

(お客様専用ドキュメント)

http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/inst_document.html

(FAQ)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/pgi-faq.html>

(PGI サポートセンター)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/support.html>

(技術情報 TIPS)

<http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/tips.html>

(技術コラム)

http://www.softek.co.jp/SPG/Pgi/TIPS/para_guide.html

なお、電話での初期サポート依頼の受付は行っておりませんのでご了承ください。

6.2 ソフトウェア情報パッケージご購入ユーザのサポート窓口

ソフトウェア情報パッケージ (サブスクリプション) ご購入のお客様は以下の事項について製品購入時より 1 年間有効となります。期間満了の約 1 ヶ月前になりましたら弊社より更新の案内をさせていただきます。

- サブスクリプション契約期間中におけるソフトウェア製品の無償バージョンアップ
- 電子メール等によるコンパイラ利用上のテクニカル・サポート
- 現在利用している製品より価格が上位の製品へのアップグレードにおける特典

技術サポートにつきましては、基本的に電子メールでの受付となりますが、電話でも受け付けます。メールは、下記のアドレスで対応しております。

support@softek.co.jp Tel: 03-3412-6008

以上